

昼間時良氏

昼間時良氏（85）は、伝統的な染め技法である「注染」を継承する、埼玉県で唯一の伝統工芸士です。70年にわたり培った職人技で染められた生地は、鮮やかで柔らかく魅力的です。昼間氏が手掛けた作品と技術は、未来に継承されるべき伝統です。



この度はリーフレットをお手に取っていただき、ありがとうございます。私たちは獨協大学 経済学部 高安健一ゼミナール "草加本染LOVERS"です！

「若者×伝統」

若者である私たちが伝統に直接触れ、昼間氏と共同で商品開発を行うことで幅広い世代へと草加本染の魅力を広めていきます。

皆さんも「草加本染」の製品を日常に取り入れてみませんか？



Instagramでは、草加本染や伝統工芸士、私たちの活動を随時発信しています！ぜひ、ご覧ください！

Instagram



SOKA_HONZOMELOVERS

発行日:2022年11月5日 無断転載禁止

発行者:獨協大学経済学部高安健一ゼミナール

草加本染LOVERS

問合せ先: esitenafashion@gmail.com

草加本染
LOVERS

草加本染の魅力

～伝統を日常に～



獨協大学 経済学部
高安健一ゼミナール

草加本染LOVERS

草加本染とは？

デザインの意味



草加本染は、江戸時代の木綿の普及と草加市が染物に必要な水が豊富であったことを背景に、この地で発展したと言われています。ゆかた産業は、草加市の伝統産業の1つに数えられています。

注染は、「やかん」と呼ばれる道具で染料を注ぎ染める「注染」を用い、布の表裏が判別出来ないほどに美しく染め上げたものです。加えて、「ぼかし」と呼ばれる技法で鮮やかなグラデーションを表現することができます。



◆「やかん」を使った染めの工程

SAIGIKU

～彩菊～

草加市の花である菊と、市松模様を構成する四角形を組み合わせたデザイン。注染の技法で浮かび上がる、彩り豊かな菊に注目してください。菊の花言葉である「愛情」と「幸福」、市松模様が意味する「途切れなく続く」に思いを馳せながら、型紙を彫りました。



YORISOI

～寄添～

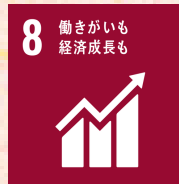
草加本染は古いという固定観念を覆すために、直感を信じたデザイン。その時々抱いている感情に関わらず、すべての人に寄り添うことができるよう丁寧に製作しました。この作品が末永く長く使われることを願っています。



EIGAN

～永願～

伝統を想起させる、印象深い柄を集めたデザイン。様々な柄を1つの世界として楽しむことも、お気に入りの柄を見つけることもできます。青海波柄は「未来永劫へと続く幸せへの願い」を意味します。草加本染を未来に残すとの願いを込めて製作しました。



SDGs：2015年に国連で採択された持続可能な開発目標

私たちは、草加市内で製造から販売までのすべての工程を完結しました。伝統産業に付加価値が加わり未来に継承されるまちは、市民にとっても快適なまちに違いありません。草加本染を手にとり、草加市の過去・現在・未来について考え、行動してみませんか？



◆製品（手ぬぐい・ハンカチ・巾着）